

中国言語文化学専攻

Chinese Language and Culture

東京板橋キャンパス

高度な専門性を備えた、 中国言語文化学専攻 中国語のスペシャリストの養成

日中の経済・文化交流は、さまざまな分野で著しい発展を続けています。こうした時代背景に対する正しい認識と中日両言語の高度な運用能力を兼ね備えたスペシャリストが、今後ますます求められることは必定です。外国語科目としての「中国語」学習熱も高まりつつあり、需要の拡大に見合った教師群の充実もこれからの課題となります。

外国語学研究科中国言語文化学専攻博士課程は、このような社会のニーズに合った中国語学スペシャリストの養成および再教育を目標に掲げ、その趣旨に沿ったカリキュラムを組んでいます。前期課程は中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の3つの専門分野に分かれます。各分野での「特殊研究」「演習」を通じて専門知識と研究能力を身につけるとともに、実習科目、共通科目を通じて異文化コミュニケーションの技能や語学研究に必要な学際知識を学びます。

後期課程も、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の3つの専門分野に分かれ、前期課程における研究成果に基づき、より専門性を深め、自立した中国言語文化学研究者及び高度な専門業務従事者の養成を目的とします。研究成果の発表の場として学術シンポジウムや複数のジャーナルがあり、研鑽を積みながら研究を深め、博士号の取得を目指します。



中国言語文化学専攻主任
秋山 淳教授

博士課程 前期課程

博士課程 後期課程

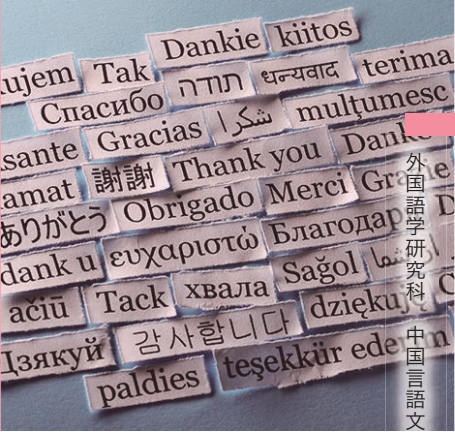
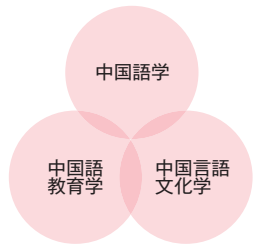
学びの特長

中国語学、日中言語比較論、中国語教育学、中国言語文化学、日中翻訳・通訳論の高度な専門性を備えた指導体制で、スペシャリストの育成をします。



【Webサイト】
外国語学研究科 中国言語文化学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/foreign_languages/outline.html#anc01

学べる領域の図



中国言語文化専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

秋山 淳 修士(中国言語文化)／教授 中国語学、認知言語学	博前 博後	母語話者が物事をどのように捉えて言葉にしているのかという認知的視点から中国語文法を研究しています。	安藤 好恵 修士(人文学)／教授 中国語学、中国語教育	博前	中国語でコミュニケーションする際に起こるさまざまな問題について、文法、会話、場面的アプローチをしています。
竹島 毅 修士(文学)／教授 中国語学校文法、教学法	博前	現代中国語の文構造、及び初級修了者への効果的な学習法に関して研究しています。	田村 新 博士(文学)／准教授 中国語学・中国語文法学史	博前	中国人が中国語(特に文法)をどう考えてきたかと、学校での文法をどう教えたなら良いか研究しています。
山口 直人 修士(文学)／教授 現代中国語文法、日中言語対照分析	博前 博後	文法の日中対照分析。日本語の観点から中国語をみると、中国人も気付かない文法現象がみえます。	趙 葵欣 博士(文学)／教授 中国語学・中国語教育	博前 博後	現代中国語の文法と語彙を中心に、言語類型論の視点から、言語表現や変化の普遍性と差異を研究しています。
吉田 慶子 博士(法学)、修士(外国語教育学)／准教授 通訳翻訳教育、日中言語文化交渉	博前 博後	通訳翻訳教育、通訳訓練法の中国語教育への応用、法と言語に関連した日中言語文化交渉などについて研究をしています。	山内 智恵美 博士(文学)／特任教授 中国文化、翻訳教育	博後	中国文化の具象的変遷から出発し、表象文化と社会の関係に興味があり、現在は文化変化が起こる精神的変遷を研究しています。
上田 裕 博士(言語学)／講師 中国語学	博前	現代中国語の文法や語彙について、主に語用論的、認知的な観点から研究しています。			

学位取得論文

- 初期におけるアメリカ憲法の中国語翻訳に関する調査
—江南製造局が翻訳した《美国憲法纂釋》を中心に
- “把”構文の認知言語学的考察
- 談話場面における移動動詞“来”と“去”の選択原理
- 中国語を学ぶ大学生のための語彙シラバス作成
—『現代漢語常用詞表(第2版)』と中検などの出現頻度を参考に—
- 因果関係を表す構文に関する日中対照研究
—「から文」と「ので文」の対比を中心に—
- 日中法律用語における同形語について
—『司法通訳ハンドブック』の同形異義語を中心に—
- 日本における司法通訳翻訳に巡る歴史的変遷と課題
—制度と人材の二つの側面から—
- 日中近代医学同形語語彙の比較研究 —『醫學名詞彙編』を中心に—

Topics

学術シンポジウムの開催

本専攻では外国語学部中国語学科との共催により年2回学術シンポジウムを開催しています。シンポジウムのテーマは中国文化、歴史、中国語学、中国語教育など多岐にわたり、学内外で活躍されている著名な先生による講演が企画されます。講演の前後には教員および院生による研究発表が行われ、日頃の研究成果を発表する機会として広く活用されています。近年のオンライン開催に伴い、日本国内だけでなく、中国からも多くの参加者があり、活発な質疑応答が展開されています。シンポジウムの成果は『中国言語文化学研究』として発行されます。

学術ジャーナル

研究成果をまとめ、公開することは、研究者としての業績を積むだけでなく、共通のテーマをもつ研究者に知見を提供し、議論を深めることで関連する領域を発展させていく社会的意義をもちます。このため論文を発表することは、研究者を目指す大学院生の方にとっても大切なことです。本専攻には大学院生が研究成果を論文の形で発表できるジャーナルとして、『外国語学研究』『中国言語文化学研究』が年1回発行されています。このほか、学内にも複数の学会誌があり教員、学生、卒業生の論文の投稿を受け付けています。これらのジャーナルに掲載された論文は電子化されオープンアクセス論文として公開されます。



Student Voice

研究力の高い指導教員から大切な学びをいただく毎日です



中国言語文化学専攻
博士課程後期課程2年
滕 暁程さん
北京言語大学大学院
外国語及び応用言語学専攻
修士課程修了

大東文化大学大学院は、中国語研究において長い歴史を有しており、研究力の高い指導教員が複数在籍している点に魅力を感じています。中国語研究に関する学術的なリソースが豊富で、大学図書館の蔵書が充実していること、また板橋キャンパスからは国立国語研究所や東洋文庫といった研究機関に気軽に足を運ぶことができる点も、近現代中国語研究を行う私にとって大きな魅力です。現在は「方言における疑問体系を分析・比較することで、中国語の疑問体系の特徴を明らかにする」というテーマで研究を行っています。比較的新しい視点からの試みであるため、理論面では自分自身で工夫しながら構築していく必要があり、その点に難しさや壁を感じることもあります。一方で指導教員の先生からの助言を通して、研究は計画的に進めるべきで、限られた時間のなか一人が出せる成果には限界があることを知り、じっくりと腰を据えて研究することの大切さを学びました。将来的には、日本の総合大学で中国語研究と中国語教育の両面に携わる教員として働くことを目指しています。

英語学専攻

English Studies

東京板橋キャンパス

博士課程 前期課程

博士課程 後期課程

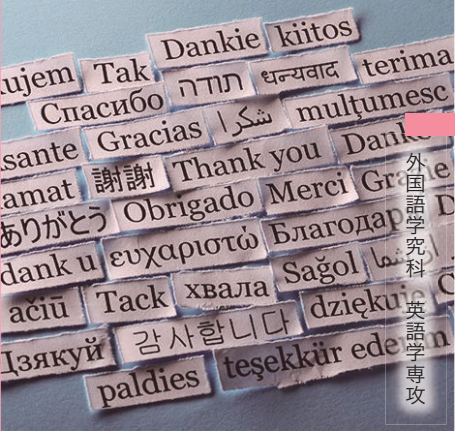
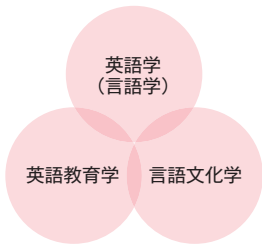
学びの特長

英語学、英語教育学、言語文化学の3分野において、理論と実践の両面から研究するとともに、実習や通訳・翻訳などの科目を通して実践的英語力を身につけます。



【Webサイト】
外国語学研究科 英語学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/foreign_languages/outline.html#anc02

学べる領域の図



「理論」と「応用」の両面から研究することで 語学のスペシャリストを養成

外国語学研究科英語学専攻は、英語を理論と応用の両面から研究するところです。専攻の名前になっている広い意味での「英語学」（英語という言葉、英語教育、英語圏の文化などを研究する諸学問）の中に三つの「分野」を設けています。狭い意味での<英語学>（英語を対象とする言語学）と、<英語教育学>、<言語文化学>です。英語学の分野には、文法を研究する文法論、意味を研究する意味論、英語の歴史的变化を扱う歴史英語学、英語の音声の研究する音声学などがあり、英語教育学の分野には、教育法、言語習得論などが、言語文化研究の分野には、地域文化、文学、思想（特にジェンダー論、宗教学）などの研究があります。

博士課程前期課程では、高度の専門知識とともに実践的英語力を身につけることを重視し、語学スペシャリストの養成・再養成を図っています。コミュニケーション実習には通訳・翻訳などの科目もあり、また共通科目には、対照言語学、社会言語学、異文化コミュニケーション研究などがあります。博士課程後期課程では、前期課程で身に付けた知識と語学力の上にさらに高度最先端の研究を行います。学会での研究発表、学術雑誌などでの論文発表を重ね、博士論文を執筆する指導体制を組んでいます。前期課程と同じく、様々な国々からの留学生を始めとして、社会の多様な層からの院生の受け入れを行っています。修了生は大学・高等等の高等教育機関を始め各方面でスペシャリストとして活躍しています。



英語学専攻主任
米山 聖子教授

学位取得論文

博士課程

- Family Language Policy and Acculturation Practices of Nepalese Families in Tokyo
- A Diachronic Comparative Study of Language Variation in Japan and Other Countries
- A Multidisciplinary Study of Diplomatic Language

修士課程

- The Influence of Japanese EFL Teachers' Explicit Pronunciation Teaching Methods on the Auditory Quality of Learners' Passage Oral Reading
- Song Translation in Musicals from English into Japanese
- Visualizing Various "Guru-Guru" Activity Practices by Experienced, Novice, and Trainee Teachers

Student Voice

「教える責任」の重さを感じ、大学院での研鑽を決めました



英語学専攻
博士課程前期課程2年
鏑野 和莉さん
大東文化大学 外国語学部英語学科卒

もともと英語教育、特に発音指導に関心があり、英語教師になりたいと考えていました。その中で大学院への進学を決めたのは学部4年生の時です。大学での授業や教育実習を通して、教師の言葉や姿勢は生徒の学びに強く影響することを実感し、教える責任の重さに気づきました。自分が納得できる専門性を身につけた上で教壇に立ちたいと考えたことから、大学院進学を選ぶことにしました。本学は少数で丁寧な指導が受けられるほか、先生方との距離が近く、じっくりと議論できる環境の中で納得できるまで向き合い、思考する力が鍛えられます。おかげで自身の考えに安易に満足せず、問い続ける姿勢が身に付きました。またハワイ留学では多様な背景を持つ人々と出会い、自分の「当たり前」を見つめ直す経験ができて、いったん立ち止まって考える姿勢が養われたと感じています。こうした姿勢を大切に、自らの考えに責任を持って行動するとともに、今後も学びを重ねながら、自分の進路に向かって成長していきたいと考えています。

英語学専攻 専任教員

博前 博士課程 前期課程の研究指導 博後 博士課程 後期課程の研究指導
※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

鈴木 敬了

博士（情報科学）／教授
歴史英語学、コーパス言語学

英語には1500年もの歴史があり、その変化を電子化された言語資料（コーパス）とコンピュータで解析し新たな発見を見出そうとしています。

姫田 麻利子

PhD (Didactique des langues)／教授
社会言語学・応用言語学

言語レパートリー、言語バイオグラフィ、文化間仲介に関する表象分析や、調査方法論を検討しています。

フランソワ・ルーセル

DEA(Études de l'Extrême-Orient)／教授
教育史、ジェンダー・スタディーズ

日本とフランスの教科書、日本におけるフランス教育機関の歴史、異文化教育などを研究しています。

モリス・ジョン

博士（文学）／教授
比較思想

日本と西欧の比較思想。現在、近世と近代の宗教における食文化の重要性というテーマについて研究しています。

米山 聖子

PhD (Linguistics)／教授
音声学・音韻論、
言語習得(特に音声・音韻面を中心に)

日本語母国語話者がどのように日本語や英語を理解しているかについて、実験的手法を用いて研究しています。

渡辺 良彦

修士（教育学）／教授
生成統語論、動的文法理論

専門はChomskyによる生成文法統語論です。現在は、言語の「核」と「周辺」の考え方を取り入れた動的文法理論の枠組みで英語の動名詞・分詞の研究を進めています。

静 哲人

PhD／特任教授
英語教育学、テストニング

英語を効果的に教える実践的方法や、英語力を測定するテスト方法等について研究しています。

淡路 佳昌

修士（教育学）／准教授
英語教育学、CALL

英語を効果的に教えるための方法や、コンピュータやインターネットを活用した英語教育について研究しています。

三島 篤志

修士（英語学）／准教授
通訳研究、通訳教育

通訳のメカニズム、通訳教育、通訳訓練法の英語教育への応用などについて研究しています。

ジェフリー・マーティン

修士（応用言語学）／講師
第二言語習得、言語評価

リスニングや語彙などの第二言語能力の習得と測定について研究しています。現在、語彙知識と聴解力の関係を調査しています。

三上 傑

博士（言語学）／講師
生成統語論、対照言語学

言語変異と言語変化に共通する仕組みの解明を目指し、生成文法理論に基づく理論的・実証的研究を行っています。

Topics

丁寧な研究指導と整備された教育体制

英語学専攻では、様々な分野の専門家を揃えて、多様な研究テーマに対応できるようになっています。また、それぞれの指導教員の下では、少人数（1名～数名）の院生に対して、将来、研究者・教育者として独り立ちできることを目指して、丁寧な教育指導が行われています。そして、正規の院生としては学力が十分でないという場合でも、まずは研究生として入って院生と一緒に授業を受ける中で力を磨くという道も用意されており、最初はその方が助かるということもあるのではないのでしょうか。

留学生の受け入れ体制を整備

英語学専攻では、今までも世界各国から多数の留学生を受け入れてきました。実際、留学生の占める割合も非常に高く、様々な言語・文化の背景を持つ学生と一緒に切磋琢磨しており、お互いの交流の機会にもなっています。授業も、英語だけで（または主に英語を使って）行われるものも沢山あります。修士論文、博士論文は英語で執筆することになっていますが、留学生によっては、むしろその方が助かるということもあるのではないのでしょうか。

多数の博士学位取得者と高等教育機関への就職

英語学専攻では、今までに多数の博士学位取得者を出してきました。その数は大東文化大学の大学院全体でも上位に入ります。これは、やはり一貫した丁寧な研究教育指導体制と院生自身の努力の賜物と言えるでしょう。博士号を取得した修了生は、海外や国内の大学、高等専門学校を始めとする高等教育機関に勤務するものが多くあり、様々な分野で活躍しています。また、修士号を取得した修了生も、高等学校、中高一貫校や専門学校などの教育機関で多く活躍しています。

日本語文化学専攻

Japanese Language and Culture

東京板橋キャンパス

国際的・学際的な日本語文化学研究を通して、 世界で通用する人材を輩出

日本語文化学専攻は、建学の精神「東西文化の融合」に則って、本学の学問的伝統を継承発展させるとともに、アジア・ヨーロッパと日本の研究をつなぐ国際的・学際的な日本語文化学・比較文化学・日本語学・日本語教育学の構築を目指します。

本専攻は、「日本語文化学系」と「応用日本語学系」という二つの系から成っています。日本語文化学系は、比較文学・比較文化学を軸に、国際的・学際的な日本学・日本語文化学として、(1) 日本文学に立脚した日中比較文学、(2) 日本の言語文化に立脚した比較文化学 を展開します。応用日本語学系は、(3) 日本語学、(4) 日本語教育学・言語政策論を発展的に統合する新たな教育研究体系の構築を目指します。

このような高度専門教育に加え、博士課程前期課程では、学生、特に留学生の日本語論文の文章力向上に力を入れており、実習科目12科目では、現代日本語のネイティブ・チェックと日本語論文の作成指導、引用史料の読解をサポートする古典日本語・漢語漢文学により、きめ細やかな個別指導を行っています。

博士課程後期課程では、国際的な日本語文化学研究者及び高度な専門家の養成を目的とします。海外の学術的需要に応えて、国際的・学際的な日本学研究の共通基盤を形成し、自立して研究活動のできる研究環境と教育体制を整備しています。

本専攻の修了者は、多くが海外の大学の日本学担当教員や日本語教員として、また、国内の中学校・高等学校での国語科教員として活躍しています。

学位取得論文

- 山東京伝『桃太郎発端話説』考 ―挿絵の趣向を中心に―
- 『南総里見八犬伝』における『法華経』と日蓮伝
- シテイル形の表すパーフェクト的意味に対応する中国語の形式
- 中上級レベル日本語学習者を対象とした多聴の効果 ―探索的研究―
- 『訓蒙図彙』元禄版本の研究
- カンボジア人日本語学習者の〈読解力〉向上のための日本文学教材開発 一宮澤賢治『オツベルと象』を対象として―
- 依頼表現のポライトネスに影響する対人関係と心的負担
- 日本語・満洲語・漢語の言語接触の研究：オノマトベを中心に

Student Voice

研究を通じて得られる多くの出会いは一生の財産になる



日本語文化学専攻
博士課程前期課程修了
小形 駿介さん
大東文化大学
外国語学部日本語学科卒

私は卒業論文の研究をさらに深めたいと思い、大学院に進学しました。研究テーマは、江戸時代の山東京伝の赤本『桃太郎発端話説』の挿絵です。それ以前の版本挿絵と比較すると、京伝が他の本の挿絵をまねたり、京伝自身が旧作の絵を発展させてゆくプロセスを読み取ることができます。この発見を論証して、修士論文にまとめあげることは苦労しました。多くの先生方から考証の方法や論証の進め方、文章表現まで具体的な御指導を受けて、修士論文を完成させた時の達成感は、言葉にできません。私は4月から地元の中学校の教員になります。二年次には学部のTAとして授業補助にはいり、諸行事の準備や運営のお手伝いもしました。学ぶ側から教える側へと意識も変わり、大きく成長できたと思います。大学院には学部だけでは手に入らないものが、たくさんあります。研究会・学会では、他大学の先生方や院生・学部生との貴重な出会いもありました。2年間という時間は短いです、得られる経験は一生の財産になると実感しています。

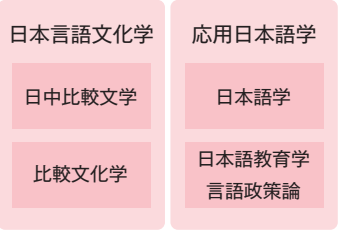
学びの特長

日本語文化学、日本語学、日本語教育学を幅広く網羅し、留学生にも配慮。海外の大学の日本学・日本語教員、中高国語科教員には抜群の就職実績を誇っています。



【Webサイト】
外国語学研究科 日本語文化学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/foreign_languages/outline.html#anc03

学べる領域の図



日本語文化学専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

上村 圭介 博士(学術)／教授 言語政策論、日本語教育学	博前 博後	社会や技術・メディアの変化が、言語間の格差や私たちの言語生活、言語政策にどのように影響するのかを研究しています。	藏中 しのぶ 博士(文学)／教授 日本文学、日中比較文学	博前 博後	日本文学・日中比較文学の「出典論」の方法で、言葉と絵画という異なる表現から<伝・賛と肖像>の構造と個々のキャラクターを研究しています。
須田 義治 博士(学術)／教授 現代日本語の文法	博前 博後	現代日本語の文法、特にアスペクトについて、形態論、構文論、テキスト論などの観点から研究しています。	田崎 敦子 博士(人文学)／教授 日本語教育学、談話分析	博前 博後	日本語母語話者と非母語話者のコミュニケーションの促進・阻害要因を探るために、母語場面、接触場面の談話分析を行っています。
大塚 貴史 博士(言語学)／講師 現代日本語の語彙論・意味論		語の意味と用法の関係、類義語の意味的異同など、現代日本語の「意味」について研究しています。			

Topics

複数の教員による計画的な研究指導

本専攻の最も大きな特長は、計画的な個別の研究指導にあります。入学後、研究計画書の提出→中間発表会→「東西文化の融合」国際シンポジウムと、ステップを踏んで、指導教員をはじめ、講義科目・実習科目・共通科目の複数の教員が連携して、みなさんを修士論文・博士論文提出へと導きます。研究テーマについては、入試センターを通して、事前の研究指導教員にご相談ください。

論文力向上のためのサポート

学位を取得する学生にとって、論文を書くための技術と能力は重要です。本専攻では、研究の基礎力を養うため、前期課程に計12の実習科目（日本語文化学実習Ⅰ～Ⅴ、日本語研究基礎実習Ⅰ～Ⅴ、日本語論文作成実習Ⅰ～Ⅱ）を設置し、留学生だけでなく、すべての学生の論文力の向上を図っています。また、これらの実習科目は、学内の他専攻の学生にも開放されています。

「東西文化の融合」国際シンポジウム

大東文化大学は、創立時から「東西文化の融合による新しい文化の創造」を目指して比較研究や国際交流に力を入れてきました。本専攻では、留学生教育と海外の大学との教育・研究交流を推進し、本学の学問的伝統を継承して、建学の精神を冠する「東西文化の融合」国際シンポジウムを開催し、国内外の研究者を招き、大学院生が研究発表を行って、毎年、新たな研究を発信しています。

